

新井宿俳句のたしなみ講座より

北斎の波にのまれし美術展 (川崎伸子)

かすり傷ほどの失恋青みかん (岡崎和子)

受賞おめでとうございます

東京都赤十字奉仕団功労者表彰 (敬称略)

- ◇銀色有功章(15年以上)

村田 直子	萩原 咲子	金井 敏明	岩井 勝子
湯浅 美代子	谷口 敏子	長谷川 朋子	橋本 悦子
- ◇金梓支部長感謝状(10年以上)

間宮 千恵	鈴木 祥子	荻山 靖久	加藤 みゆき
-------	-------	-------	--------
- ◇銀梓支部長感謝状(5年以上)

井上 佳江子	深川 正浩	藤野 兼三	琴井 茂和
千葉 浩司	平林 健孝	吉川 信一	坪井 初代
三本 和弘	加瀬 輝彦	荒井 昭夫	三沢 洋子
柳川 輝雄	大橋 基	中村 誠子	大沼 スミ


鉄炮塚 留美子

大田区青少年対策地区委員会永年功労者表彰
長谷川 朋子 庄嶋 孝広 村田 直子 平林 千賀子

東京都功労者表彰(地域活動功労)
鈴木 英明

新井宿地区 福祉と文化と医療のまちのスペシャルデーを今年も開催!

11月3日の大田文化の森・新井宿福祉園・さぼーとぴあの三会場は、親子連れからお年寄りまで多くの方で賑わいました。大田文化の森では、大森三中出身の三遊亭ときん師匠が思いやり落語として「三方一両損」を披露、笑顔の輪が広がりました。



新井宿スポーツ・ニュース

***都大会で優勝!**
入四小を母体とするドッジボールのクラブチーム「IRS FINAL」が、第33回夏の全国小学生ドッジボール選手権の東京都大会で優勝しました。8/18に水戸で開催された全国大会に出場、予選リーグを突破しましたが、決勝トーナメントで惜しくも1点差で敗退。大健闘の夏でした。

***関東大会へ進出!**
大森三中の男子バスケットボール部は、第77回東京都中学校バスケットボール選手権大会で64校中みごと第三位となり、第54回関東大会に出場して活躍しました。

編集後記

作家「小関智弘」さんを今号で初めて知りました。寄稿文《旋盤工・作家》誕生までの過程を興味深く拝読させて頂きました。是非小説を読んでみたいと思います。

そして、「地域力推進新井宿地区委員会」の紹介です。月一回の会議で、様々な分野の方とのつながりがあり、そこから発展していくイベント等は、皆様も参加したことがあるのではないのでしょうか。多くの方々が、わがまち新井宿の住民を支えています。その事を改めて感じました。(笹井編集委員)

地域活動の体験談⑦

第7回は、新井宿七丁目町会の西條 誠一会長です。
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

令和6年9月22日(日)に、七丁目町会の防災訓練を大森地域庁舎で行いました。私が町会長に任命されてから、3度目の訓練でした。(コロナの影響で3年間中止)

昨年は、関係者の人数が、参加者より多く低調でした。来賓の皆様、また大森消防署山谷出張所の皆様には、本当に申し訳無く思いました。

その反省から、今年は回覧は勿論、掲示板のポスターのサイズも大きくしました。また、前日町内の隅々まで、マイクにて参加を呼びかけ、すれ違った人には声がけを行い参加を促しました。

当日は天気が悪く、雨風が強くて安定しない天気でしたので、室内にて訓練を行いました。災害のDVD鑑賞、AED訓練、防災時の心構えなどを放映しました。有る程度は納得出来ましたが、町会取得のスタンドパイプの使い方等を参加者の皆さんに実際に手で触り放水をして欲しかったので、そこが少し残念でした。

今回も若い人達の参加が少なく、もっと多く参加して欲しかったです。このことは、町会の願いでもあります。今後も、この課題を真剣に皆さんと共に考えていかなければならないと思います。

大きな声で「わがまち新井宿」といえる様にしていきたいです。活気有る町会づくりを、皆さんと共に築いていきます。

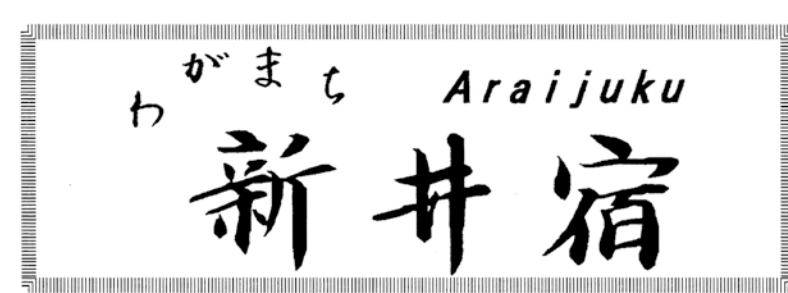
発行	地域力推進新井宿地区委員会
編集	「わがまち新井宿」編集委員会

中央一丁目町会	編集委員長	関口 直人
新井宿五丁目町会	副編集委員長	谷口 敏子
新井宿七丁目町会	副編集委員長	福田 スミ
山王三丁目東自治会	編集委員	荒木 秀樹
山王三・四丁目自治会	編集委員	三沢 清太郎
山王三・四丁目自治会	編集委員	岡本 浩子
山王三丁目自治会	編集委員	高橋 弘樹
山王三丁目町会	編集委員	吉川 信一
山王三丁目町会	編集委員	小関 智子
中央一丁目町会	編集委員	形見 俊郎
中央四丁目町会	編集委員	佐々木 泰子
新井宿五丁目町会	編集委員	加藤 弘子
新井宿六丁目町会	編集委員	松木 由紀子
新井宿六丁目町会	編集委員	笹井 美佐

……共同編集……
監修 新井宿自治会連合会
事務局 大田区新井宿特別出張所
大田区中央1-21-6 ☎3776-5391
<https://www.city.ota.tokyo.jp/omori/index.html>

新井宿特別出張所管内の世帯と人口 令和6年10月1日現在

- 世帯数…12,056世帯 前年同月比 +187世帯
- 総人口…22,041人 前年同月比 +86人(男+59人 女+27人)
- (男…10,955人 女…11,086人)



●地域ゆかりの文化人 《旋盤工・作家》誕生まで 小関 智弘



JRの線路から東寄りの町で生まれ育ち、敗戦の年の五月末の米軍の空襲で家を焼かれたのが、中学一年生のときでした。後に「大田区史年表」の1946年のところに「大森駅前より新井宿二丁目大森郵便局前までの九九〇メートルが、東京一長い歩道簡易マーケットとなり」と記録されているのが、いわゆる戦後の大森の闇市です。幼い弟や妹を連れてガードをくぐって、もの欲しげにほつつき歩くと、歩道の地べたに箆を敷いて並べたふかし芋やすめるめいかの匂いが鼻をくすぐりました。でも、その終点の郵便局の前の路地を右に入れば、義民六人衆を祀った善慶寺があるとはつゆ知らず、左に曲がって家路につくのが常でした。

中学高校を文芸部や社研サークルですごしたわたしは、戦後六年間一家が住むバラックがいまにも崩れそうになったのに、おやじは酒盛り、おふくろはオロオロするばかりなのを見かねて、進学をあきらめ、小さな町工場の旋盤見習工になりました。従業員たった三人。戦前戦中に腕を鍛えた職人のもとで、生まれてはじめて鉄を削る仕事につきました。以来、もう少し面白い仕事がしたくて、あるいはあと少し高い給料を求めて、またクビにもなり、逆に倒産の不運にもあい、区内の町工場を転々と渡り歩きました。

渡り歩きながらわたしは、日本の産業の最底辺の、吹けば飛ぶような町工場が、実はそれどころか、びっくりするような技術技能を駆使して、日本の産業を下から支えていること、そしてそこで働く人たちが貧しくて孤独でも、逆にそれ故に助け合って生きてゆく姿に感動して、「いつかこの人たちのことを書こう」と、ひそかに決意したのでした。

町の若ものに呼びかけると、入新井青年会が生まれました。そこで文集を出すと、やがてそれが「入新井文学」に、さらに後の「塩分」という同人誌に続いて今日に至ります。当時の青年会の会場は西の市で知られる驚神社でした。

あるとき弟が、新井宿のお寺でコーラスをやっているよと誘うので行ってみました。それが善慶寺でした。毎週土曜の夜、地元の青年男女に混じって、病院の看護婦や商店員や若い労働者もが、広い本堂で大声で歌っていました。あ

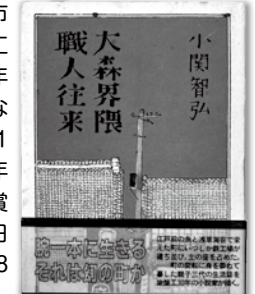
の重苦しい軍事教育や敗戦直後の飢餓からようやく解放された若者たちが、「町から村から工場から」の歌のとおり、みずからの声で歌い、自分の言葉で文章を書きはじめた時代でした。まだ公共の文化会館など皆無の時でしたから、善慶寺や驚神社はなんととも有難い存在でした。

若者たちだから当然のことで、歌のあとは一杯やりたいのが人情というもの。さいわい歩いて五、六分ほどの、白田坂下の今のきらぼし銀行の裏手に、当時まだ占領下の沖縄から直輸入した本場の泡盛を飲ませる、河童亭という小さな酒場がありました。夜になるとコーラス帰りのわたしたちと、やはり地元で活躍している十五人会という劇団の仲間がよく合流して、また歌の競演となったりしました。

近くに山王書房という古本屋があったのと、河童亭の主人が俳句の会の世話人だったこともあってか、作家や評論家、画家や落語家といった人びとも常連に名を連ねていて、そのひとりに劇作家の大垣肇さんがいました。初対面のわたしに「君は詩が好きかね」とたずねました。うろおぼえに暗誦して、わたしがつかえると、その先を大声で続けて「小説だろうと芝居だろうと、いや音楽や絵にだって、詩心がなければウソだ。詩心だよ君」と教えてくれました。また、わたしの「町工場もの」の作品に「出来事を書くのも大事だが、人間だよ、人間を描くんだよ」との教えは生涯忘れられませんが。

手書きガリ版刷りの『塩分』を河童亭のカウンターに置いてもらったら、文芸評論家の久保田正文さんが「これは面白い」と『文学界』に転載の労をとって下さるという幸運にも恵まれて、『旋盤工・作家』の肩書きが生まれたのでした。

【プロフィール】1933年2月1日、東京市大森区入新井生まれ。大田区周辺の町工場に旋盤工として勤務しながら、1960年代から『新日本文学』や同人誌『塩分』などにて小説を発表。1977年『錆色の町』1978年『地の息』で直木賞候補、1979年『羽田浦地図』1981年『祀る町』で芥川賞候補、1981年『大森界限職人往来』で日本ノンフィクション賞を受賞する。1958年より山王三丁目在住。現在91歳。



『大森界限職人往来』の著者、小関智弘さんに戦中戦後の新井宿界限における滋味あるお話を寄稿して頂きました。念願叶い、編集者冥利に尽きます。

自由に語れば会議は踊る、その名は長し

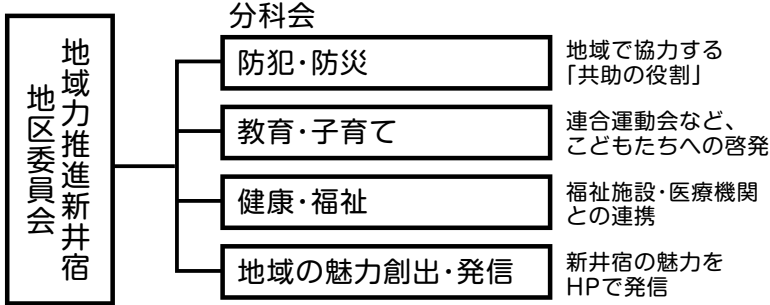
『地域力推進新井宿地区委員会』(通称:地域力会議)



子育て・福祉・防災など様々な分野の団体によって構成される委員会です。月1回の会議では地域・行政が連携し、地域の課題解決に向けて話し合いを行っています。

今年度からは毎回最後に、地域における役割も仕事も全く違ったもの同士六人程度で、その回のテーマについて短時間自由に語り合っています。その内容を発表し合うのですが、回を追う毎にメンバーの距離が縮まり有意義な会議となっています。また委員会の中に、分野ごとに議論できる「分科会」も設置しています。

●組織図●



毎回違う人たちとグループディスカッションを行います

●構成団体一覧●

自治会 町会	山王三丁目東自治会、山王三・四丁目自治会、山王三丁目町会、中央一丁目町会、中央四丁目町会、新井宿五丁目町会、新井宿六丁目町会、新井宿七丁目町会
こども	小中学校（大森三中、山王小、入二小、入四小）、青少年委員、山王スターズ、中央コンドルス、入四ランナーズ、PTA（大森三中、山王小、入二小、入四小）、青少年対策新井宿地区委員会
医療 福祉 行政	大森警察署、大森消防署、地域基盤整備第一課、大森清掃事務所、大森医師会、地域包括支援センター新井宿（大森医師会）、大田区社会福祉協議会、新井宿福祉園、新井宿老人いこいの家、文化の森運営協議会、大田文化の森、大森赤十字病院、障がい者総合サポートセンター、大森地域健康課、大森地域福祉課、大森生活福祉課、民生・児童委員協議会、大田区保護司会第二分区
その他	地域情報紙編集委員会、NPO法人大森まちづくりカフェ、大森消防団第四分団、スポーツ推進委員、新井宿ちとせ会、新井宿七丁目町会長寿会、新井宿長生会、MEGA ドン・キホーテ大森山王店、白田坂下通り商店会、観音通り共栄会、山王三丁目商店街振興組合

<新井宿地区の、永続的な発展を目指して> 新井宿自治会連合会 鈴木英明会長

従来、地域力会議は、地域課題について、自治会・町会と公的機関が相互に報告をする会議体でした。地域の繋がりを創出するため、令和4年度以降、「地域力会議の拡充」に取り組み、この地域力会議は、地域の連携・協働を目指した協議体へと、変わっています。

現在の地域力会議は、以前から参加している公的機関と自治会・町会に加え、医療機関、地元小売店、民間団体などに委嘱を行い、合計50団体による、活発な議論がなされています。あくまで一例ですが、今年3月には、委員である地域包括支援センターが、同じく委員である「MEGAドン・キホーテ大森山王店」の店舗スペースにおいて、見守りキーホルダー事業のPRを行いました。公的機関と小売店という、普段付き合のない両団体が、地域力会議を通じて、つながりが生まれ、事業を実施することで、お互いの強みを共有した好事例です。

地域には、様々な団体が活動していますが、私は事業を行わないことで、組織は衰退していくものと考えます。多少の負担はありますが、事業を継続することで、組織の成長、活力、そして、機能性を高めることができます。地域課題を解決する主体は、警察、消防、学校、区役所などの行政機関や、自治会・町会だけの問題ではありません。この新井宿地域の中にあるすべての団体が、地域づくりを行っているのです。

以上のことから、この地域力会議は、これからも拡充を続け、地域課題の解決、そして、新井宿地区の永続的な発展を目指し、取り組んでまいります。



△地域力会議メンバーの声▽



奥田 和子さん
(新井宿地区民生委員・児童委員協議会 会長)

私も民生委員児童委員協議会は日頃の活動の報告をいたします。会議の場で多くの団体・組織からの報告、地区全体の動きや情報、意見として民児協の活動へ持ち帰ることができる地域全域での有効な情報です。また、会議後半のグループによる話し合いでは、分野が違う委員による発言に新たな気づきがあります。地域力会議は、まさしくSDGs「誰ひとり取り残さない、持続可能で多様性と包摂性のある」会議だと思えます。

前任より引継ぎ地域力会議に出席し2年目となりましたが、毎回出席するたびに驚かされています。毎回各委員の方々からの報告があるのですが、その話の巧みなこと、行政の方々の仕事柄もちらんのことですが、各町会の会長や婦人部の方々の報告は演説でも聞いているかのようで、現役時代は何をされていたのか気になりながらも毎回お話の勉強をさせて頂いております。

本委員会では、地域を支えていくために組織や団体が常日頃から互いに顔の見える関係にあることこそが大切だということを日々学んでおります。大森日赤としてこの地に70年、諸先輩方と比べるとまだまだ若輩者ですが、これからも地域の一員としてのその役割を果たしていきたいと考えております。



明珍 基樹さん
(大森赤十字病院 総務課長)

<地域力会議で生まれた地域のつながり>

本校では、今年度から総合的な学習の時間において「地域を愛する子」の育成をサブテーマに掲げて取り組んでいます。3年生では、新井宿地区の素敵な場所、人、歴史を探ることから始めました。私が4月に地域力会議に初めて出席した時、「わがまち新井宿の歌」を関口直人さんの弾き語りで聞きました。こんな素敵な歌をこの地域の人達みんなが歌えるようになったらと思うと、その入り口になるのは子供達です。本校の子供達に歌わせてあげたいと願い、歌を作った関口さんに直接お願いをしました。



入新井第四小学校
前川忠彦校長

1学期の7月4日に関口さんと、音頭バージョンに振付をした荒木眞弓さんをゲスト・ティーチャーとしてお招きし、3年生に特別授業をして頂いたのです。はじめに関口さんから、新井宿の素晴らしさについてのお話を聞き、一緒に歌を歌いました。その後、60人で大きな輪を作り、荒木さんから振付を教えて頂きました。楽しく汗を滴らせて「わがまち新井宿音頭」を踊ったのです。

7月27日「大田文化の森の夏祭り」で催された盆踊りには、約半数の児童が参加して地域の人達の輪に加わりました。そして、来年もみんなで踊りたいと話するなど、「わがまち新井宿音頭」は子供達の中にすっかり溶け込んでいきました。

このような実践は学校の力だけでは到底できません。地域の人達の地域を愛する力、子供達を愛する力があってこそです。まさに「地域力」のお陰だと感謝しています。



後日、生徒たちからの嬉しいメッセージを束ねた一冊を受け取り、関口さんと荒木さんの二人は感激したのでした。

▶わがまち新井宿音頭はこちらから聴くことができます。



『わがまち新井宿の歌』

作詞作曲/新井十九

- 大きな森だ 大森だ 文化の森だ
花子とアンが 暮らした町だよ
ごきげんよう (ごきげんよう)
ああ ああ 新井宿 わがまち新井宿
- かんなんしんく 艱難辛苦に立ち向かい 命を懸けた
六人衆の 勇気を決して
忘れない (忘れない)
ああ ああ 新井宿 わがまち新井宿
- 大森蒲田で大田区だ 山王中央も
呼び名は変われど 故きを温ねりゃ
新井宿 (新井宿)
ああ ああ 新井宿 わがまち新井宿
- 月は東に日は西に 星座は夜空に
我らはこの地に 平和に暮らそう
いつまでも (いつまでも)
ああ ああ 新井宿 わがまち新井宿